俳諧續歴集

全

甲州の鶴子郡より
こゝろゝ續歌集を編ま
かゝるゝ俳諧に西行の手人
ゝゝれるゝゝゝゝ
竹集の一冊をもて述ぶ

稿をけさ[illegible]
[illegible]
のこゝろをば[illegible]
と辭世といつゝ[illegible]
[illegible]

[illegible]
をこゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]の形容嬌
[illegible]
[illegible]

千時文政乙酉の春月

中のとをかを書

春雪

野の山陰に

中雪白し

不二の山

田喜蔭書

芦汁の蒸す
浮巣に
巻き
鳴く

初秋の
蟬ふるあめと
放屁の雑
蒸山

[illegible]

[illegible]

[illegible]

續歴木集

[illegible]　蟹守

例年[illegible]　舊雨

雜子[illegible]　守

大工[illegible]　雨

[illegible]

[illegible]　守

[illegible]　雨

[illegible]の子と半分[illegible]粟をも秋の風　丙
矢城のあとにかゆさ忘れぬ　吉
朱雀野の鬼も出でぬる秋もみな　丙
[illegible]の鶯乃[illegible]　吉
面とり泥手はまめ[illegible]　丙
やまの乃茶師を祝日も秋来　吉
[illegible]月あれ月の雲　丙
[illegible]秋[illegible]雲あく　吉

四ツ五器の物をもあ[illegible]　丙
相手入[illegible]の香を焼[illegible]　吉
身の老をよろ[illegible]の甲斐の水　丙
[illegible]乃[illegible]　笑

[illegible]や真[illegible]　蟹守
[illegible]　猿物
羅[illegible]毎の四乗焼[illegible]　守

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
義陽の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

上

天の川 後夢の 後ゝ分ぬ　蟹守

月きよく 澄て 増る 秋夜 哉　射山

ほのゝと 信濃路 かな 秋の風　吉

面影の 雲の 撫子 散れく　山

冥吉る 友よ 夕 暮 れ ぬ　吉

猫の ひけらも 垂 上の 用　山

手 拭 吉 ゝ と おり 知 ら 呂　吉

鈴 吉 か ゝ と 手 れ 小 吉　山

吉ゝきぬの 数 ゝ り 蓮 水の末　仝

亡人の 名を 呼 れ ゝ 吉　吉

二 百 も ゝ ぬ ら を 張 提 灯　山

いゝ ゝ ら 義 を 堀 ら ん　吉

蟬 貝 の ら 吉 ゝ 市 の 夜　山

ゝ ゝ 発 部 ゝ 夢 の 時 り　吉

ぬ 変 ゝ ゝ 世 の 変 れ 彩 ら く　山

出 産（マシ） を ま ゝ ゝ 来　吉

美も春のみ雪の雪や　山
人あれ新年の実　鶴　筆

新年少時の小春月の松　蟹守
雪月　色　明の時雨　篤笠
赤白二面の具の四季せき　守
詩書かれ書かれ　旅書き　笠
笹の月曲くてみみ見て　守

名残惜しき秋書　笠
牧分れ書き業平の目を　今
木の端の月　雪　剃刀　吉
水の秋　高の明門　笠
夜の夜の　書　吉
雪の雪　信　笠
旅の足の　吉
清の月　詩を　今

先侍の咲こゝ有ぬ　釜

とこへ中ら花の咲せ乃ら山　同

ゆるゝ〻ゝ春も菜のあまり元　釜

春は今ゝ色食錢也売ゝ来ル　同

糠の雪ゝも雪おゝ乃ら　釜

貞外

春の雪ゝ二十六夜乃あゝ寺ゝ　湖流

水ゝ雪ゝ色ゝ寒ゝ〻ゝ　真洞

雪ゝ荷の乃ゝ定物ゝと著ゝて　蟹守

人釧雪ゝ先何ゝ人ゝ形像　真貫

ゝ物ゝ色ゝ抽ゝ来ゝ　洞

ゝ物ゝ色抽ゝ　祝

下手れ寺大皷ゟ兎角那左ほあり　貫

ひとまかく濤鯉よ日のいふ　古

ちはの小町を注ぬ者もあし　洞

葬獨申しぬきーつさ　貫

此川とそもかりくと鳴鍋の身　諸

古の記し秋きも果報一秋さ　洞

七草を突出される男めし　古

わらふて妹ゟ足る犹沙川　椿船

足擂ゟ消えて兄かる縄伝山　貫

去年のまゝて縊よ葢をもる　古

見ちらし花の貝売秋ふくろ　諸

桜あるひらく奥ふのく乙せく　貫

若申からも七ツの襟をつきはめ　寸風

鼻うちかみく比佐千切　延流

思よふ醫者の兄立の重ソ小そ　雪丸

揖のまへてあらふ翌日ふ本隊　艸也

九釜を分せる滝の山　流
奥ふく先の西木ちりく　風
ひろきに魚をとかせる他の流　也
日鉢たれてさらす井を川　九
夢ぬる中より猿と脅負て市に出る　風
小さな屋川ら撥く酒のむ　流
押分て流完中に月晴て　九
又一さらさらと鶴　也

新風年号八幡屋の上屋御　流
よりふる延女子初穂とりて　梅宝
新酒の花独を惜かる寺泊　也
鯛より小菓をかあてやり　風
月貨の金銭よひそむ茶さう　宝
鬱ふかと面よ時　茅

四句
四句

湖流
真洞

蟹守　四句
真貫　五句
椿太　一句

次韻

行脚　寸風　四句
江戸　逝流　四句
行脚　雪丸　三句
江戸　草也　四句
在江戸　梅宝　二句
執筆　一句

題をしるす

勝丸のる寺れかりそ梅の月　椿胎
人つとひきふるあるる萩の秋　鳴居
少し秋の森ふかあふ初橋　棗故
とりさりゆ寺人ゆ梅の花　洸流
ぬきを玉の秋ちあまりも梅のとひ　金芝

のろ〳〵や男花の名みな見やゑき　秀月

[illegible]　西ノ　鯵彦

和[illegible]れてゐる　[illegible]　上イマ井　蛙伯

[illegible]　イノ　蜂良

[illegible]　ヒラヨカ　如雪

[illegible]　アイ沢　甫洲

[illegible]解や　[illegible]けの鶴の[illegible]　孫柔

[illegible]　五丁タ　等之良

[illegible]の[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]や　[illegible]　ハラ沢　斗南

[illegible]　[illegible]　五風

[illegible]　[illegible]　與山

○

荷少なくうれ侍を寄の月　逸我

関うれ新しうきわや新さくら　芦外

咲と聲と重侍あれ高の籠屋　和風

茶の歌寄の歌もしまみ侍し　不或

○

猪ハ[illegible]や和尚れ浦ワの梅臭　ナカ沢 狼歌

[illegible]ん茶[illegible]ワの茶ころ　ツキミ子 助六

寄れ月みとまて流きわ　カシカ沢 霧外

[illegible]侍や月のまきあ田　湖毎

万葉や年を回きく侍り等　其川

[illegible]月おあ[illegible]田や迄[illegible]　渙巨

暁乃毛て海ぬを[illegible]の海　其園

物乗て一瓜寄き梅れ茶　イツミ 菊二

梅ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]花　露外

[illegible]の月をうるまの[illegible]　ヌキヒロ　西坡

一面すうすうやうあり[illegible]山　ホトトギス　勇雄

関の戸又梅は月夜のあまり哉　義松

さらくと雪踏月や梅は花　泉知

あるひや藤又あるひきるもうう　正雄

堂　咲うへ[illegible]の雪は身　市川　哥心

雪は身雪の戸口は人出入　タカタ　坂井

梅咲や[illegible]　極楽寺　二系

[illegible]　イマフク　栄鳥

月と雪と雪一ぱの歌[illegible]　一丁畑　弋鳳

雪よつゝ[illegible]月夜系　ホリ内　巣雙

雪は身思へとうとき拍木哉　大ツ　蒼尾

人とありさまの白の松を畏和る　甲府　方居

ちゝをしくしらを搖の垂月　十ツヤ　一作

芳出の破あて

春雨月　ふるさと　清の江　小永　漫々

山さゝ　瑞中　あて　ユト　太弟

月又　分々　部月　あり　弟　孤山

搖の弟　月　ふる　ふる　ふる　慈々

あ原表又　春又　庭　ふり　雛遊　芝山

帰洛夕日　簾あり

山さ久さ　をて　ふる　ふる　ふる　三千九

○

二人ゝく　立　ふる　ふる　柳　この　奥　曰人

出代　さ　袖の　春又　似る　ふる　ふる　芳南

花の　さ　ふる　ふる　春　ふり　井の　奥　三津良

踏迷ふ花を雲とうつせる　蕪歌

庭掃く常なるやあるべき身　蓋角

先一輪梅ありけるとある夕へ　兎園

年くのふるさとの水やうるの宮　鳴樹

初雪届き雪離て又少し　国行

移身柳よりかつる枝をきて　若人

梅の面影記のやもきぬ　ちろや　采之（スルカ）

[illegible]　連也

何かあるさとうつる雪の身　是玉

年迫ぬ日を歌うる女このれ　冬羅

常世猶あるものや簾の面　淵古（エンシウ）

野辺の雪雛浮き文ありろし　芝彦（ヨハリ）

乙[illegible]　二三日　卓池（ミカハ）

[illegible]人[illegible]　木芽
[illegible]　秋峯

[illegible]人の名[illegible]　椿堂（イセ）
[illegible]　井里
[illegible]の[illegible]　京　十丈
[illegible]　火坂　井眉

[illegible]　素玩（レカサ）
[illegible]　君海（タンコ）

[illegible]　菱亭（フンコ）
[illegible]　鶴風（ヒセン）
[illegible]　羅風（ナカト）
[illegible]　蔓雲（アキ）

[illegible]

[illegible]

行人の[illegible]　一瓢

[illegible]　水年

[illegible]　洗花

時と[illegible]　麦我

[illegible]　歳外

[illegible]　真洞

[illegible]　浅村

[illegible]　田嶋　半漁

[illegible]　尤義　雨猿

[illegible]　湖山

時雨[illegible]　西十シロ　麟里

[illegible] 太拾

[illegible]

[illegible] 西ノ 蕪白

[illegible] 上今井 峨城

[illegible] 真愛

[illegible] 小笠原 一義

[illegible] 孤峯 ツキミ

[illegible] 志考 ホクシ

[illegible] 与泉 イツミ

[illegible] 東呉 [illegible]

[illegible] 松

[illegible] 其風

[illegible] 陸波

物きひの月とみるかほ哀うす　八季

月きよし蓮よ初うり蕗の芽焙　多々美玉

鶏きゝゝ第の月きよこゑれうり　昌信

平月毎や秋々新の形よ弟り鶏せ　参井鳳村

子規時ゝ人の来ぬ月　市川桂文

多年も寄るかゝたりみゝゝる　亀柳

又身面乃ゝ人ゝ身のある面と　別人

又半ちゝあゝぬたりてゝゝ面　素琴

和月毎の時ゝく家もあれゝゝ　イマフジ和雪

肥きゝゝ蛍の赤きゝ夕涼　マエヤキ鬼桂

蟬の声ゝ面乃ひゝけ弘　東花ウ子桂

猫の寄ゝ氣ゝゝゝゝ又月面　山ノ井可申

[illegible]
一撓の業[illegible]　不及

[illegible]
[illegible]の[illegible]　文爾
[illegible]　拠来
[illegible]　竹彦
[illegible]　寺雄
[illegible]　一貫

[illegible]
[illegible]　徐滙
[illegible]　何頼

[illegible]　教高
[illegible]　蛾村
[illegible]　鶴義

雲の峯ゆの暑り湧出泳き、　正六

千鉢ゝ坂屋の錦手まつられ花　芳計

新涼を追ふや飛鷺の走帰　乙人

旅人と去く先へく来なり出桜川　應佛

藥乗川さやうふ野も稲の雲の影　常賀

よきところ栗や宮も涼しき　仙市

括捩ら茶

眼のなき人のけもなし、ゑ月雨、　武田

夜の月旅よかりもそはふあり　叢

あの川ふり香おきまりぬ秋の雨　摂奥

色あとれ鶯よ思ふぬ五雨飛　旭浪

杉窓をみて渡る坂よ会もへし　呉洋

猫せし人みまぬ日

子規待ちてる人もとよくし　江戸　心飛

みしらぬ都とを旅とりあく夜の月とも　奥　十竹

人のあく皐月ハ人の浮世なり　紀州　永木

やとりとき　長崎の中や仙生舎　アフミ　千鶴

青藤子　ゆくく寂　笑雲の業　文常

浦葉子　ゆや小あの俳諧世くく　宇洋

終歳　紙をひらくくるや重の業　雨秋

年子　長年義を掃よりり　イセ　宗古

松子の故郷に住つまよりり　ヨノリ　呂川

あ原に大面ちくく鳴る鶯　カハチ　朱杞

茅屋のさ庵

鶯の宛ちまもる鶯也　京　蒼乱

茶は吸殺　ちちん　牧童　ちち　凡也

菓子　知ちれハ長崎桂丹　其成

えちちる歳もあくくちちも　加へ　横津　屋鳥

秋ゝやまと吹うける山法師　墨菓

ふる郷ゝと蒙古の佛ハ殺古ゝ　魯隠

若も敬も有き人かゝゝ弟子ゝ　星瀾

去ありとも咎ぬやうまゝく宋古ゝ　泥中（ハリマ）

雨雲を角ゝうけて牝牛　玉乃

牧風ゝ岑ゝ寺ゝ去用ゝ　周泉

○

鳴の巣ゝ雲ゝ世ゝ去ゝ人ゝ牛ゝ　篤老（アキ）

よゝも来ゝ座の星ゝ牛ゝ　風郎

江ゝ雨ゝ去ゝ合ゝ日ゝ小窓ゝ　圭雨

第ゝ一日泥ゝ法ゝ　洛宅

雖ゝ牛ゝ牛ゝ牛の蛙　函嘯（ヒロシ）

秋を萩月虫文句等〳〵へ

萩の露咲てもゆへ[illegible]　響一

除〳〵さは　張[illegible]　秋の立　真彦

案山子さへ秋の情を持るけり　鶴舎

[illegible]　叶ふく帰る[illegible]　米翁

[illegible]　人の書　西ノ　擕山

相[illegible]あけて秋の運び　こう邦　古市場　美敬

月ちの[illegible]　[illegible]の年　竹馬　ヲ千巻

月影を星は抱ぬ　[illegible]　巌友　ヨキ来

[illegible]の身[illegible]　[illegible]　静萱　小金原

[illegible]

初秋[illegible]　[illegible]　土牛　ヲ千合

[illegible]の[illegible]　[illegible]　乃[illegible]　美都我

百月や[illegible]　牛の[illegible]　不金

蘭の香や蓑着て行く人の秋　得奥（東京）

椎の木の人目も草も秋の来　五来

鶏頭や五位鷺の立て居る丘　鶏丸

屋敷出て行く秋の川　平河（カシワ沢）

三人寄り茶を飲む秋の暮　義年

白菊や鶏頭赤き見た事　其玉

月見せん高き丘　技墨

朝顔一本つるを作る庵の引戸

見て憂世の美実破るしこの花寒　常道（市川）

明れも機嬢も秋よ寒し　盤石

秋の暮川　擂丸　蕎の花　蔓　素岳（大鳥井）

撲よ竹うちの世の蒲の花寒　亀年（久力田）

秋風や野を吹ぬ日も寒し　草丸（加茂）

ちらちらく　木の葉分く秋のり　真柱（木木）

春如雨ゆ　ゆらゆて　春の　玉　久歳（第）

夕ゆれ　ちらや　木撞道　詠伯

さうとそもうまのあるや　月の雲　車西

秋の秋の　ちるはよ　三笠山　雅啄（サカミ）

葦　野や　ゆ　あと　夜の　さうり　廣懐（下弦）

ちらちらと　かるうり　めぐ　赤（奥）　雛渕

ふ菊や　ちらちらて　押うり　飲河（二十五）

秋の月　知ら　この　ふ　見る　この　ふ　茗村

芭蕉　知ぬ　夕　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　草祇（三十）

人影や　紫　月の　あれ　吾三

紫　野や　秋　ちらく　ちの　春　香志

押あてぬやうに茶この邪　石明

一茎もれて一茎の窓よ夕日さし　一之

芋の葉ゑとゝ鳴るのうら山風　霞霄

拭きぬを蓋半うり亀踊の子　海藻

名月やうつる手のとゝ玉　春伯

きれいなるやうの葉の蔵る　里風

春雨はあくあいたまりあり　百山

夏をくあるや町屋の月の鉄　魚何

かさゝあくあく馬繋るうら一茎うえ　京雪雄

鳥うるや蔵うるもあるさもう　推古

鉢きりや打てもきりぬ水の抜（ヲフミ）　米友

きるあくあるまて蕎の山路　大坂笠秋

目あるくも芒うるくも秋の　多和

稲妻の光り消ゆる世に無常　野場（冊故）

老ゆる日数の早川や寄かるゝ　市朝（ハリマ）

孫ゝ子ゝ多少々々后の身　一暁（摂津）

照る月は沈みハちるる花に　桐栖

夕山を霧おりゝ歩行　老の杖　花叔（出雲）

大ゝる海あり　秋の暮れて神ゆく　木居（アキ）

海鹿古元

夕ゝ雨や降ゝ夢ある秋の山　北映（行師）

流れ早ゝ　雨ゝ降ゝ　草公

ゆくゝ雲の月ゝ　ゝ

人ゝ知るこの俳諧市場　の　太年（古市場）

撰集ゝ賢聖　ゝ　朝平（小美濃）

あさしみの寄りて枯野や鴨路　ヲチ合　物成

木兎の耳をまもるやしくれ雨　東呉

甲斐の酒折なる道を投候したり
実秋の末ある谷川の中川をわたりて

陰奥のの岐よあるまゝ敷係れ葉　青柳　晃彦

城内ある附人ま志くれけ雪　カシカ沢　麦芽

枝寒う語係尾や木の葉を華あくら　芦陽

○

月と日丸新みのえ係枯野哉　今フク　桂眉

ゆく雲や呂雨雲のとよん地　一竿

夕ぐれの山の手に葵の湖あれ哉　去　望川

枯蘆みる篁より来係浜也の声　鴎里

新涼まる郭公あまりなん藤祭哉　ハリマ　舎律

庵のかれよ打見あれや枯尾花　摂津　九梁

麦の里ま雨かれくひとり川鳥あれ哉　奇渕

[illegible]ゆく春や立ち寄る小田の水　玄蛙

[illegible]れり拍子木　蘆洲

[illegible]あるとあるうちの　嘯二

[illegible]の初しぐれ　虚白

[illegible]苔寒く来れば年元たるあり　露褒

○

拍子木を鞨鼓の如　年眉

此頃は月夜も[illegible]　斗楽

[illegible]　石海

鞨鼓は静の泥[illegible]

鞨鼓の星は津[illegible]来る[illegible]　菊兒

[illegible]の[illegible]入江[illegible]　志桂

来る[illegible]を初時雨　知東

参詣牡丹を流れ寄せあり　公亭

家々うゝ高くなれ初夏中の月　格外

立身や ひとり事 返る 蛍 獲　魚居

初雪を 蕎麦 啓 ものを 安 ゆ　朱九

琴 鶴の 間 よ あや 吹 法 小 寄 ふ　拙史

みゆきつもるもうちもくく
かのもけ面こ事 絨る 手
こ〳〵 ゝ き 日 影 ゝ や 蕎 ち ゝ

寄のこゝを 作 山 高 ゝ れ ハ 樹 れ あ ゝ き　寥松

振 ゝ く て 雑 ゝ 新 ゝ り 新 れ 芳　雄 嶺

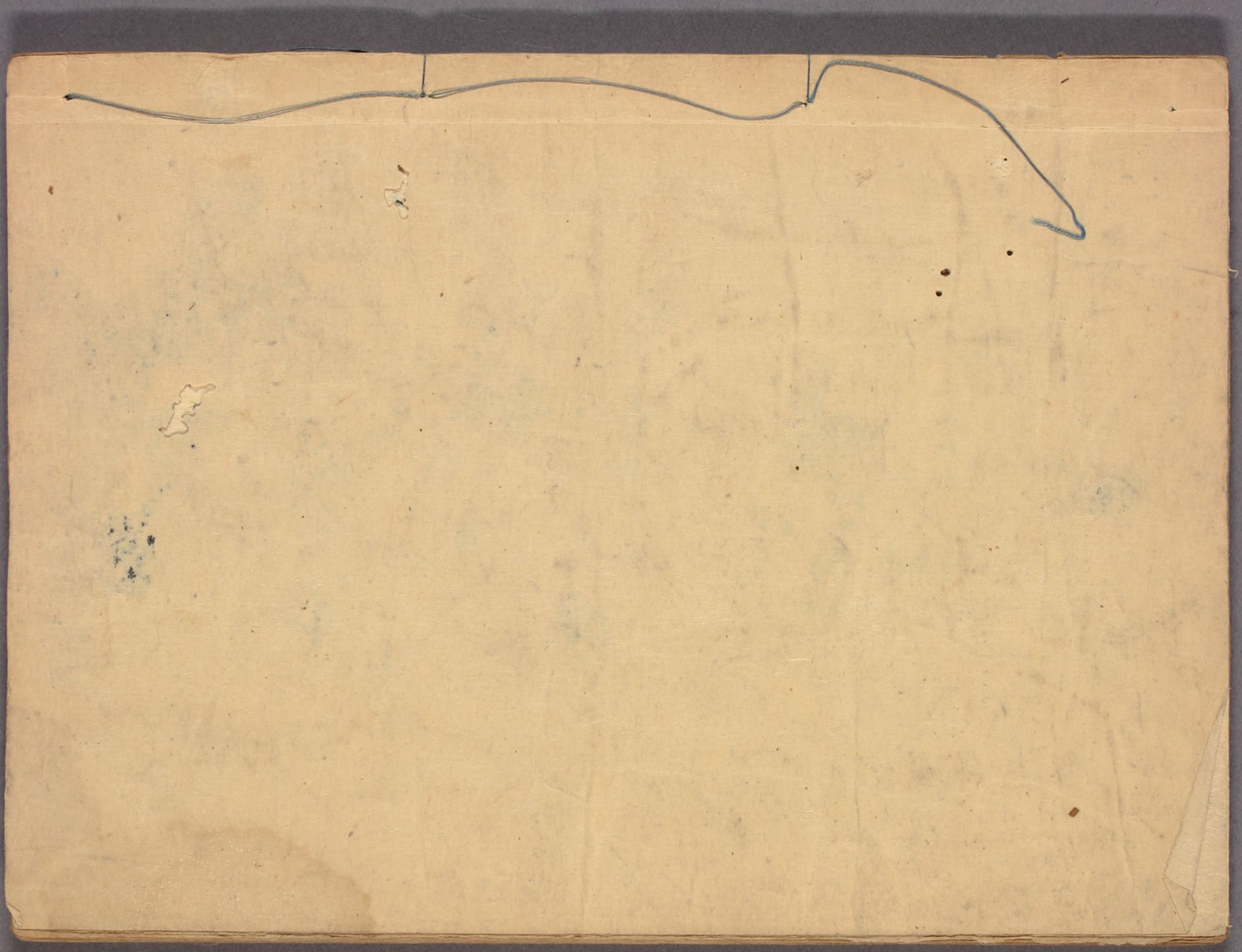
一 ゝ 四 ハ ゝ 山 ゝ る 小 ゝ ゝ 真 祐 故（下毛）

拙 殺 ヘ 日 の 夢 ゝ る 寄 ゝ 里 九

月 の ゝ ゝ ゝ の 奥 も 十 ゝ ゝ 雪 九（カヘ）

寄 ゝ く 振 ゝ く 塗 る ゝ ゝ れ 彩　寸 風（イヘバ）

海 の 中 を 半 果 ゝ ゝ ゝ 巻 の 表 巾　一 瓢（イヅ）

文政九丙戌年
春三月發行

東都書林　馬喰町二丁目
永壽堂
西村與八